



令和7年度 愛顔でつなぐ “学校・家庭・地域” の集い

「地域ぐるみで育むえひめっ子未来創造事業」普及啓発事業

愛媛県教育委員会では、幼稚園から高等学校までの保護者・教職員、福祉関係者、企業関係者等が一堂に集い、学校・家庭・地域が連携した県民総ぐるみによる教育支援体制づくりについて学び合うため、「令和7年度 愛顔でつなぐ “学校・家庭・地域” の集い」を開催しました。

1 主 題 「社会総がかりで、愛媛の子どもたちを健やかに育てよう」

2 日 時 令和7年8月7日 午後0時30分から午後4時35分

3 場 所 愛媛県生涯学習センター・えひめ青少年ふれあいセンター

4 参 加 者 314人

5 内 容

(1) 講 演

テーマ：「すべての子どもに体験の機会を～体験格差の課題と解消に向けた取組～」

講 師：公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事

今井 悠介 氏

(2) 分科会等

分科会等	研 究 テ ー マ
第1分科会	【地域学校協働活動】 幅広い地域住民の参画により、学校と地域が連携して子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか <発表1> 玉津小学校学校運営協議会 一色 良 <発表2> 愛媛県立松山盲学校 教諭 沖田 栄江 <指導助言> 愛媛県CSアドバイザー 遠藤 敏朗
第2分科会	【子どもの居場所づくり】 全ての子ども・若者が安心して過ごせる地域の居場所づくりをどのように進めるか <発表1> トーヨーコーヒー四国中央 代表 青木 千穂 <発表2> 久米わくわくチャレンジサタデー 高橋ひなの 品川 航汰 杉野 美音 藤村 小桜 <指導助言> 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 代表理事 今井 悠介
第3分科会	【子育て・家庭教育支援】 保護者と子どもを支え育む子育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか <発表1> NPO法人ぼちまる 代表 出山 義洋 <発表2> 大洲子育てサポート “そよ風” 家庭教育支援員 祖母井規子 家庭教育支援員 上杉 美保 <指導助言> えひめこどもの城 園長 敷村 一元
第4分科会	【地域教育の担い手づくり】 子どもと地域をつなぎ、地域の学びを豊かにする人材の育成をどのように進めるか <発表1> 国立大洲青少年交流の家 主任企画指導専門職 岡本 和也 <発表2> 鬼北町公営塾 講師 浅越 聖光
模擬出前授業	【えひめ学校・地域教育サポーターの活用】 えひめ学校・地域教育サポーターを活用して、子どもたちの豊かな学びや体験の充実を図ろう <模擬出前授業企業> 社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会 <ブース説明企業> 株式会社大石工作所、西染工株式会社、株式会社愛媛FC 仙味エキス株式会社、朝日共販株式会社

6 アンケート結果、参加者の感想等

【参加者の感想（講演について）】

- 親の経済状況の違いによって、子どもたちの経験に差が生じてしまうことを、国や自治体、NPO法人が連携して解決しようと取り組んでくれていることに感心したのと同時に、私も地域社会の一員として何かできることはないかと沸き上がる思いを感じました。
- 子どもたちが選択できるような体制づくりを目指すことはとても大事だと思いました。何事も体験しないと、その後の発想も生まれないと改めて気づくことができました。



講師 今井 悠介 氏



具体的な事例をもとに話していただきました。



【参加者の感想（分科会について）】

- 子どもにとって学校や家庭以外の第三の居場所がすごく大切だと感じました。大人は子どもに指導してしまいがちですが、そうではなくて、ただいてもいいよという安心できる心のよりどころがあることは大切だと思いました。
- 学校や幼稚園だけでなく、相談できる場があることを知り安心しました。もっとたくさんの人に知ってもらいたいし、子育て中の人、終わった人に関わらず、子育てについての話を手軽に読んだり、聞けたりするところがあるといいなと思いました。
- 家庭、地域、学校が相互に連携しながら、地域の宝物である子どもを育てていける社会になればいいと思います。



事例発表の様子



グループ協議の様子



【参加者からの提言】

- 自分の困りごと・やりたいことを、声に出していいと思えることが大事だと思いました。子どもたちの声を押し込めたり流したりせず、大切にしていくことで、思いを口に出せる大人を育てていきたいと思います。
- 希薄になる地域社会の中で、子どもに「最近どんな」「元気か」と声をかけてくれる大人を増やしていきたい。また、そのような大人と子どもをつなげられる親でありたいと思います。
- 子どもにかかわることに地域がかかわっていく方法は、いろいろな角度から考えないといけないと感じた。学校から、地域からということではなく、子どものために何ができるのかという視点で検討していきたいです。
- 子どもたちの未来に対して大人は責任を持つことが求められていると思う。しかし、決して過保護になるのではなく、羅針盤なき時代の航海を求められる子どもたちが自ら考え、行動していく土台を固めていくために必要な学びや体験の場を確保していくことが求められている。“たのしい”というのは心地よさだけではなく、困難や犠牲を超えた先に獲得できるものでもあることを伝えることが大人の責任ではないかと感じました。

7 終わりに

今年度は、県スマート行政推進課と協働したインスタグラムの活用や各学校を通じて学生や生徒に案内を行う等、この集いの開催を広く周知したことで、高校生や大学生、教育支援関係者等、地域の多様な年齢や立場の方々の参加がありました。

アンケート結果では、集い全体への感想は99%が肯定的意見（講演の肯定的意見99.5%、分科会等の肯定的意見98.5%）であり、非常に高い評価を得ることができました。今後も、愛媛の子どもたちの健やかな育ちのために、学校・家庭・地域の連携・協働について社会全体で考え、学び、深めていくことにつながる研修を実施していきたいと考えています。

なお、これまでの「集い」のダイジェストは右の二次元コードから御覧になれます。



【アンケートより…集い全体の感想】

